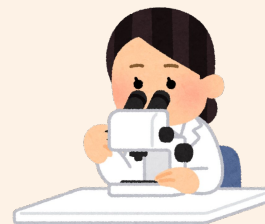


2025年度 SSH特設科目「SSII」

【第16回】 各自の研究活動

2025年10月28日（火）



11月8日(土) 探究Day

ポスター(A3×8枚)発表
発表6分、質疑6分

高校2年生は全チーム発表
実験・調査結果、考察まとめ、
今後の展望も発表

他校から
も発表者
が来ます！

探究Day 芝浦工業大学柏
中学高等学校



ともに学び、
ともに深める。
だから、
探究はおもしろい。

2025年11月8日(土)
小・中学生の部 9:30~12:00 高校生の部 13:30~15:50

内容
ポスターセッション形式による探究成果発表会
(探究の途中経過を発表することも歓迎いたします)

発表対象者 小中学生・中学生・高校生
観覧対象者 小中学生・中学生・高校生
教育関係者・保護者

お問い合わせ
芝浦工業大学柏中学高等学校
〒277-0035 千葉県柏市勝院 700
TEL:047(714)3700
e-mail:conference@shibaura-it.ac.jp
探究科主任 浅野真由

当日の詳細
発表申込はこちら
申込期限10/11(土)



当日の詳細
観覧申込はこちら
申込期限11/1(土)



4限まで通常の土曜時程

13:30	～	13:50	開会式
13:55	～	14:55	ポスターセッション発表 (発表6分、質疑6分)
15:00	～	15:15	閉会式
15:20	～	15:50	交流会
15:50	～	16:20	片付け
16:30	～	16:40	帰りのHR後、下校

探究Day 発表形式

課題研究メソッド
p.132、142-144 ①

研究計画書兼報告書
(1) 研究テーマ

どのような研究を行なったか、内容がわかり、かつ興味を引くタイトルをつけよう。
言葉を付けて満足しても良い。

タイトル

生成AIを用いた短文記述採点方法の開発と運用

チーム番号: 777

全員の
組番号 + 氏名

チーム番号
メンバー

この3つを必ず入れる

課題研究メソッド
p.142-144 ②

研究計画書兼報告書
(3)①: リサーチエッセンス

研究の目的

- 研究に取り組んだリサーチエッセンスの内容とそれが生じた背景を示し、研究の目的を示す。
- リサーチエッセンスに対して、自分が立てた仮説とその根拠を示す。
- プレゼンテーションの導入部分として、「この研究は必要だ」、「面白そうだ」というように興味をもってもらえるようにまとめる。

課題研究メソッド
p.142-144 ③

研究計画書兼報告書
(2) 研究背景

研究背景

- 初めて発表を聞く人に内容を理解してもらうために、背景となる現状や先行研究・事例を説明する。
- 発表で用いる言葉の意味や定義、現状を表すデータ、先行研究・事例を紹介する(データを引用した場合、引用元を示す)。
- これまでどのような取り組みや研究が行われ、何が分かっているのか、何がすでに解決されているのかなどを説明する。

課題研究メソッド
p.62、142-144 ⑤

研究計画書兼報告書
(3)②: リサーチエッセンスの意義

研究の意義

- 先行研究・事例をふまえ、自分が課題研究を行う前の状況を示す。
パターン1: 社会的貢献) 現在の課題に関する社会課題、未だ取り組まれていないこと、現状を放置することで起こりうる状況
パターン2: 学術的貢献) 先行研究から現在わかっていること、わかっていないこと
- 自分の課題研究が、上記の課題にどのような影響を与えるかを示す。

課題研究メソッド
p.142-144 ⑥

研究計画書兼報告書
(3)③: 仮説
(4) 研究方法

研究方法

- どのような研究方法を用いてリサーチエッセンスの解決に挑むのか、具体的に詳しく述べる。
具体的でない例: 「インターネットで調べる」、「アンケートを行う」
→ 条件、手順、対象、参照文献、データなど 研究方法に合わせよう

課題研究メソッド
p.142-144 ⑦

研究計画書兼報告書
(5) 研究結果
(6) 考察・結論

結果・考察

- 調査・実験で得られた結果を、図や表などを可能なかぎり用いて、視覚的に内容がわかるようにまとめる。
- 注目してほしいポイントを色線で囲むなど、聴衆が理解しやすいように工夫するといよい。

ポスター(A3×8枚)発表

1枚目	表紙
2枚目	研究背景(先行研究・事例を用いた現状分析)
3枚目	研究の目的(リサーチエッセンス)
4枚目	研究の意義(社会や学術への貢献)
5枚目	研究方法(調査・実験方法)
6枚目	★結果・考察
7枚目	★結論・展望(まとめと今後の展望)
8枚目	引用文献・参考文献

10枚に収まる範囲で
結果・考察および結論・展望の
スライドの枚数を増やすことも可
(★がついている項目は2枚まで増やしてよい)

探究Day(11/8)までのSSIIの時間

探究DayまでのSSⅡ あと1回(2時間)

研究活動と発表資料の準備・練習を計画的に進めていこう！

10/21	発表資料推敲 → 完成
10/28	資料が完成したチームから発表練習開始(リハーサル)
11/1	スライド完成×切(08:45時点)。各指導教員印刷開始。
11/5	15:45より指定の教室でスライドの貼り合わせ作業

貼り合わせ作業について

日時:11月5日(水)15:45

チームごとに教室を割り振っているので確認してください！

チーム	教室
A・B・C	2年1組
D・E・F	2年2組
G・H・I・J	2年3組

発表タイトル提出

探究Day当日の配布資料に掲載します。
本日のSS授業時間内に提出してください。



提出後の変更できません。

よく考え、確定したものを送信すること。

探究Day発表評価ルーブリック①

観点／SSコンピテンシー	レベル4 (卓越している)	レベル3 (十分できている)	レベル2 (概ねできている)	レベル1 (改善を要する)
1. 構成の論理的一貫性 批判的思考力 表現力	目的から考察まで論理的に固く結びつき、一貫したストーリーを構成	全体の流れは明確だが、一部に論理の繋がりが弱い箇所がある	必要な要素は含むが、関係性の説明が不足し構成が断片的	各要素が点在し、論理的な構成がなく全体像を掴めない
2. 課題の背景と意義への理解 未知への好奇心 社会に開かれた姿勢	知的好奇心と社会背景が結びつき、多角的根拠で意義を示す	意義は説明できるが、自身の問題意識との繋がりが不十分	意義の説明が抽象的で、なぜ自分が取り組むのかが不明瞭	研究の意義や問題意識に至った背景が説明されていない
3. 問いと仮説の適切性 仮説構築力	先行研究に基づき本質を捉えた独創的で検証可能な仮説を設定	検証可能な仮説はあるが、先行研究調査や独創性に課題あり	仮説はあるが論理的根拠が弱く、検証方法が不明確	検証可能な仮説として具体化されず、研究の軸が不明確
4. 研究方法の妥当性 手続き的知識 情報活用能力	最適な方法を比較検討し選択、手順を具体的かつ明確に説明	適した方法を選択できるが、選択理由の吟味が不十分	方法は示すが手順の説明が曖昧で、誰でも実施できない	方法が仮説検証に繋がらず、信頼できるデータを得られない

探究Day発表評価ルーブリック②

観点／SSコンピテンシー	レベル4 (卓越している)	レベル3 (十分できている)	レベル2 (概ねできている)	レベル1 (改善を要する)
5. 結果の解釈と考察の妥当性 批判的思考力 メタ認知能力	複数視点で客観的に分析し、研究の課題と今後の展望まで言及	論理的な考察はできるが解釈が一面的で、課題の分析に至らず	結果の説明はできるが考察不足で、単なる結果報告に留まる	結果と意見が混同し、客観的事実に基づく考察がない
6. 発表の明瞭性 表現力	聞き手を常に意識し、言葉・声・視線まで工夫した対話的発表	流れは分かりやすいが表現が単調で、聞き手への工夫不足	原稿に沿って説明するが、聞き手を意識せず一方的	資料を読むのみで声量不足等もあり、内容が伝わらない
7. 視覚的表現のデザイン性 表現力 情報活用能力	図表・配色を緻密に設計し、要点を強調して説得力を高める	図表を用いて整理されているが、重要情報の強調が不十分	図表はあるが配置や情報量の調整が不適切で理解しにくい	文字中心の構成で視覚的工夫がなく、理解を妨げている
8. 質疑応答における対話力 批判的思考力 協働する力	質問意図を汲み取り、客観的に捉え直し根拠をもって応答	質問を理解し考えを答えるが、データとの関連付けが弱い	質問意図を正確に理解できず、一般的な意見での回答に終始	感情的応答や「分かりません」のみで、対話を深めない

前日～当日準備・後片付け

- 研究授業協力クラス(2・3・4・5組)以外の生徒が担当。
- 6・7組の生徒には前日準備、
1組・4組(物理選択)の生徒には当日の後片付けを担当してもらいます。
- ポスターをパーテーションに貼る作業・剥がす作業は各チームが責任を持って行なってください。剥がしたポスターは各チームでお持ち帰りください。

!!注意!! 貼り付け作業は11/8(土)の4時限目終了後からです!

担当	集合時刻／場所	作業
6・7組全員	16:00@大体育館	パーテーション移動、会場設営
1組全員 4組物理選択	15:20@大体育館 ※交流会参加生徒は15:50	パーテーション撤去、椅子・備品等片付け

前日準備

会場設営イメージ
2月の生徒探究発表会と似たレイアウトです。



引用文献・参考文献の書き方

スライド上で使用した引用文献・研究で使用した参考文献を示す。
文献の種類ごとに書誌情報の記載を統一する。

例) ※詳細は課題研究メソッドp.176-177

- 本(日本語): 吉川俊哉 (2011). 『大学とは何か』 岩波書店.
(著者) (発行年) (書名) (出版社)
- 論文(日本語): 中野由美子 (1974). 「階層と言語 教育社会学における言語研究の位置づけ」
(著者) (発行年) (論文のタイトル)
『教育社会学研究』 29(0), 146-160.
(雑誌名) (巻数・号数) (論文のページ)
- Webページ: 文部科学省 (2012). 「大学改革実行プラン～社会変革のエンジンとなる大学づくり～」
(作成者) (公開年: 不明な場合は省略可) (Webページ名)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/022/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2012/09/19/1325116_7.pdf
(URL)
2020年11月2日.
(アクセス日)